

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	20-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Meeting the Global NCD Target of at Least 10% Relative Reduction in the Harmful Use of Alcohol: Is the WHO European Region on Track? アルコール乱用の最低 10%の相対的減少という世界的 NCD 対策の目標達成について：欧州地域は順調か		
執筆者		
Probst C, Manthey J, Neufeld M, Rehm J, Breda J, Rakovac I, Ferreira-Borges AC.		
掲載誌		
Int J Environ Res Public Health. 2020 May 14;17(10):3423. doi:10.3390/ijerph17103423.		
キーワード		PMID
アルコール乱用 欧州 NCD		32423032
要 旨		
目的： 世界保健機関（WHO）が提言した非感染性疾患（NCD）の予防と管理に対する行動計画では、NCD のリスク因子とされるアルコール乱用を、最低 10%相対的減少させることが目標と定められている。飲酒者の割合と一人あたりのアルコール摂取量（alcohol per capita consumption; APC）は、WHO 地域の中では欧州地域が最も多い。そこで本研究では、WHO の行動計画の欧州地域における経過を評価するために、APC と年齢調整した大量機会飲酒者の割合を調査することとした。		
方法： APC は、公式に記録されているアルコール消費および記録されていないアルコール消費（アルコールの売上や課税などの公式な統計に含まれないもの）の合計に対し、旅行者による摂取量を修正した値とした。1 回あたりの飲酒量が多い人（多量機会飲酒者）は、一度に 60g 以上のアルコールを 30 日間に 1 回以上摂取した場合とした。これらの 2010 年から 2017 年の相対的な減少あるいは増加率を、性別、国別（欧州地域を地理、飲酒パターン、経済状態に基づき 6 地域に再分類した）に評価した。		
結果： 2010 年から 2017 年にかけて、APC は欧州全体として-12.5% (95% confidence interval(CI); -17.2, -7.0)と減少しており、目標を達成できていた。しかし、地域別では EU 諸国が-2.4% (95% CI; -12.0, 7.8)と減少幅が小さいのに対し、東欧は-26.2% (95% CI;-42.2 -8.1) と減少幅が大きく、地域間で差が認められた。多量機会飲酒者の割合は、欧州全体として-1.7% (95% CI; -13.7, 10.2)とほとんど変化はなかった。		
結論： アルコール摂取量の減少という目標について、東欧では実質的な進展があったが、EU 諸国ではわずかな進展のみであり、欧州地域内で差が認められた。		